

VRTカード講習会

労働政策フォーラム：若者と向き合うキャリアガイダンス

- 第2部 ツール講習会

- 2015.3.19

1. キャリアガイダンスにおけるカードタイプのツールの活用

- もともとはカウンセリング場面で活用する道具(職業カードソート技法)として発達(1960年代～ 欧米で)
- Tyler: 個人を区別する時にそれぞれの人物を特徴づけるものは何か?
- →人の個性の核となる部分は、個人が行う選択の内容と選択したものを構造化する方法によって見いだされる。

2 . VRTカード開発の経緯

- 正確な心理検査を実施しなくても、簡易に、短時間で受検者の個性理解ができるとうい。
- 心理検査であると圧迫感を感じる受検者もいるので、あまり検査風ではないツールの方がよい。
- 実施は簡単であっても信頼できる結果が得られ、解釈が難しくくないものがよい。

3. VRTカードとは？

- カードソート法によるガイダンス・ツール
- 「職業レディネス・テスト」を基本
- 心理検査というより相談や教育の場での素材としての活用を期待
- カードセットの内容：「職業レディネス・テスト」の職業志向性に関する54項目を1枚につき1項目記載→興味や自信で分類

1

ぶひん く た きかい
 部品を組み立てて機械を
 つく
 作る

1

き かいくみたてこう
 機械組立工

図表1 職業カード54枚
 おもて面

RIASEC

R

T

図表2 うら面

DPT

4. カード記載情報(裏面)

- RIASECの内容: アメリカの研究者, Holland, J.L. が提唱.
 - 現実的興味領域 (Realistic: R尺度)
 - 研究的興味領域 (Investigative: I尺度)
 - 芸術的興味領域 (Artistic: A尺度)
 - 社会的興味領域 (Social: S尺度)
 - 企業的興味領域 (Enterprising: E尺度)
 - 慣習的興味領域 (Conventional: C尺度)
- DPTの内容
 - D: Data(対情報志向), P: People(対人志向), T: Thing(対物志向)

図表3 興味による分類



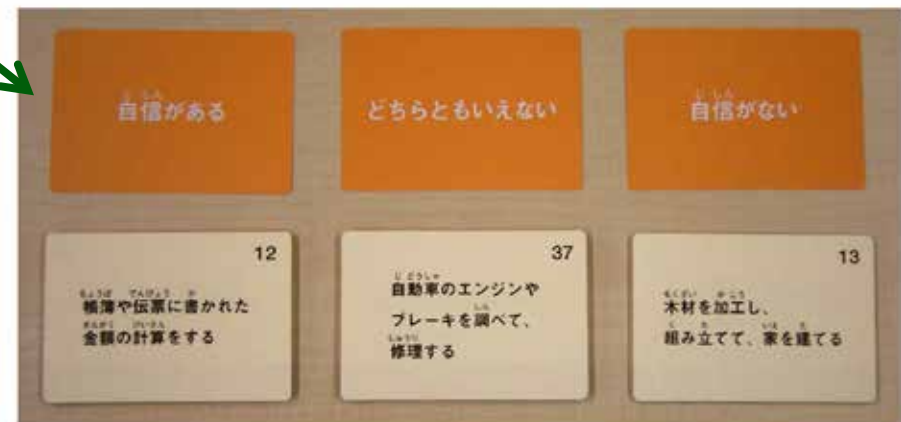
やりたい

どちらともいえない

やりたくない

分類カード(緑とオレンジ)

図表4 自信による分類



自信がある

どちらともいえない

自信がない

5. 特徴とメリット

- テストという圧迫感がない
- 楽しみながら自己理解
- 実施と採点の整理が簡単
- コミュニケーションの共通用語を提供
- いろいろな対象者に実施できる
- 実施者がいろいろな使い方を考えられる

6. 用途と実施形態

- * 職業選択に迷う若者の個別相談で活用(担当者が若者に実施)
- * 職業意識を高めるためのグループワークで活用(セミナー形式で、参加者同士が二人一組で実施)
- * 中学生、高校生、大学生の進路相談やキャリア教育の授業で活用(教室で実施、面接の待ち時間に活用などの工夫もできる)

高校のキャリア教育での実施

- ・VRTカードの都内の都立高校での実践。
- ・2時限を続けて使い、キャリア教育の一環として実施。
- ・先生の手作りの分類シートを活用。
- ・解説を担当する先生が1名、その他、サポート役の先生1名、大学生等のボランティアが数名で参加。

7. VRTカード演習(分類)

ペアリング

- ・二人一組。実施者(Bさん)、受検者(Aさん)。

分類の準備

- ・分類カード3枚(緑)を受検者(Aさん)にむけて机の上にならべる。受検者から見て「やりたい」を左に。

やり方の教示

- ・実施者(Bさん)による教示

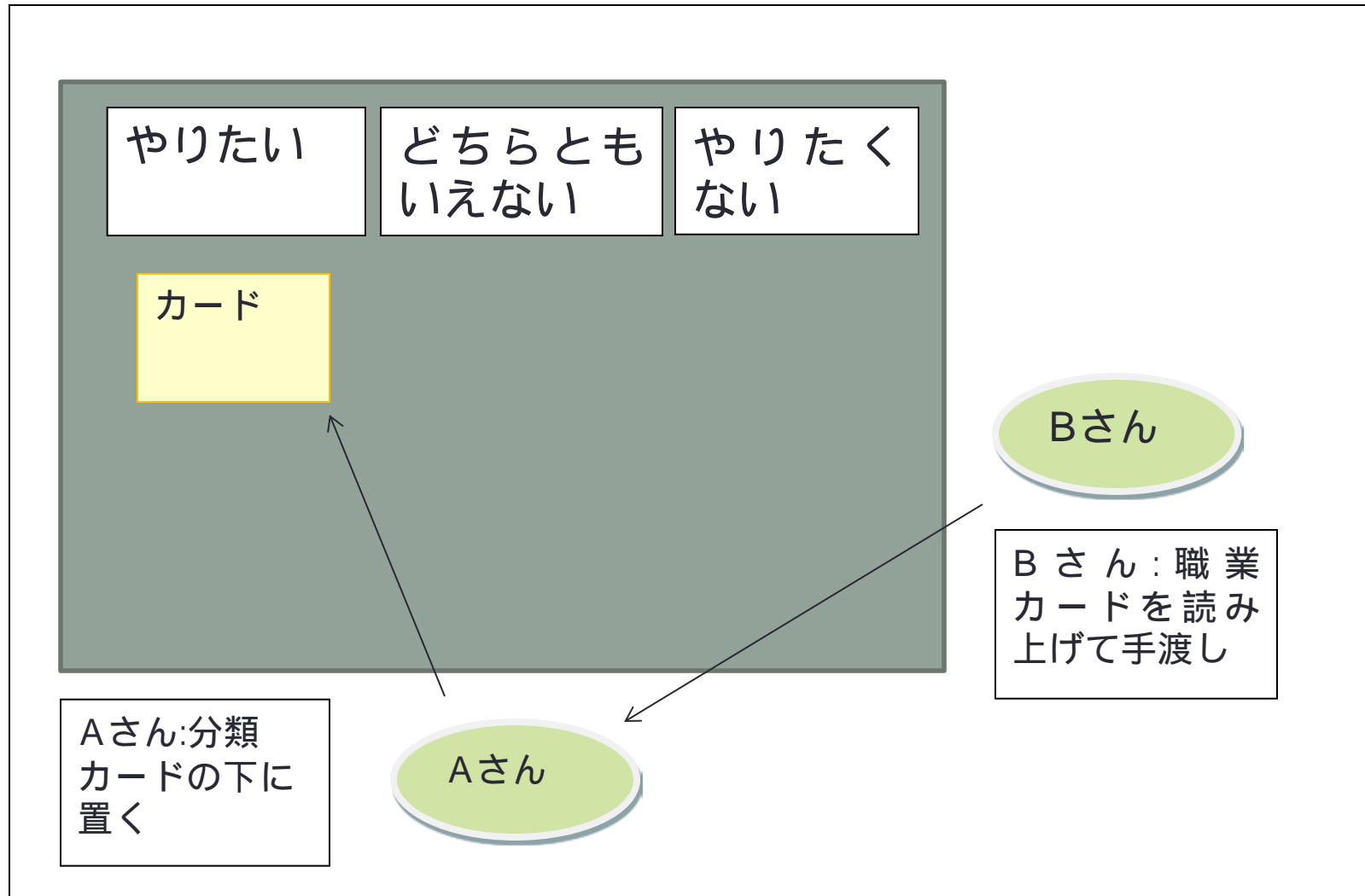
分類(読み上げ方式)(図表5)

- ・実施者はカードを1枚ずつ読み上げて、受検者に手渡す。
- ・受検者はカードを受け取ったら、自分の思った通りの分類カードの下にカードをおいていく。
- ・54枚すべてのカードの分類を行ったら、終了。

カードの収納

- ・分けた結果が混ざらないように気をつける。
- ・分類カードを、それぞれの山の一番上にのせて(仕切りのようにする)、ケースにしまう。

図表5 VRTカードの実施イメージ



* 実施上の留意点

- 興味に関する分類：「実際にできるかどうかは考えずに、**やってみたいかどうか**だけで分けて下さい」という点を強調する。
- 実施者は、分けている様子を**よく観察**する。判断に時間がかかっているカードや発話がみられたカードをチェックする（メモを取るなど）・・・個別実施の場合

8. 結果の記録

結果・記録シートの活用

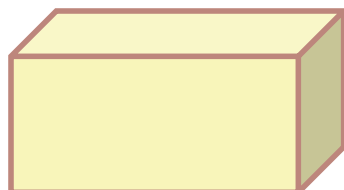
- ・結果・記録シートを用意する。
- ・表と裏がそれぞれ「興味」、「自信」となっているので、分類に対応した面を使う。

記録(実施者が番号を読んであげて、受検者が記録)

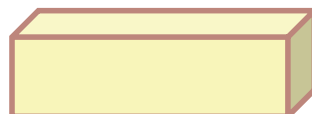
- ・ケースから3つの分類のカードの山を取り出す。
- ・「やりたい」のカードの番号を で囲む。「どちらともいえない」、「やりたくない」についても同様に。

図表6 記録のための協同作業

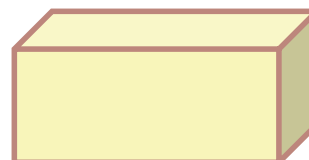
やりたい



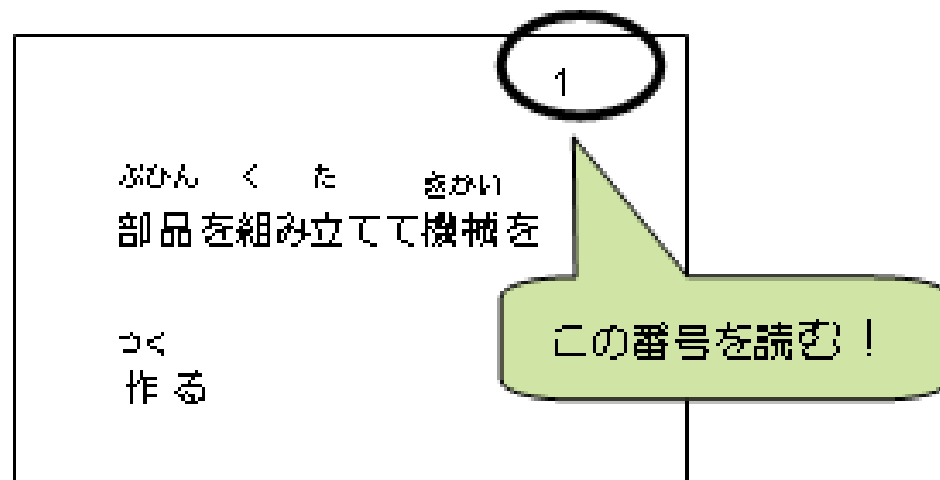
どちらとも
いえない



やりたくない



分類の山ごとに
番号を記録する。



1番、6番…

番号に〇つけ…

カード



記録シート

集計

- ・横に合計の枚数を出した後、最後に縦計を出して、54枚になることを確認。

集計が終わっても、カードは混ぜないで置く。「分類カード」はそれぞれの山の一番上にのせたままに。

集計が終わったら、役割交代

～ は、「カードを裏返し、興味の6領域ごとに枚数を数える」ことで代用可。

横に の数を数
えて記入

図表7 結果・記録
シートへの記入

VRTカード

所属	
氏名(または番号)	受検者:

① やりたい カード番号を○で囲む

1	7	13	19	25	31	37	43	49
2	8	14	20	26	32	38	44	50
3	9	15	21	27	33	39	45	51
4	10	16	22	28	34	40	46	52
5	11	17	23	29	35	41	47	53
6	12	18	24	30	36	42	48	54

横一行計

枚	R
枚	I
枚	A
枚	S
枚	E
枚	C

合計 枚

② どちらともいえない カード番号を○で囲む

1	7	13	19	25	31	37	43	49
2	8	14	20	26	32	38	44	50
3	9	15	21	27	33	39	45	51
4	10	16	22	28	34	40	46	52
5	11	17	23	29	35	41	47	53
6	12	18	24	30	36	42	48	54

横一行計

枚	R
枚	I
枚	A
枚	S
枚	E
枚	C

合計 枚

③ やりたくない カード番号を○で囲む

1	7	13	19	25	31	37	43	49
2	8	14	20	26	32	38	44	50
3	9	15	21	27	33	39	45	51
4	10	16	22	28	34	40	46	52
5	11	17	23	29	35	41	47	53
6	12	18	24	30	36	42	48	54

横一行計

枚	R
枚	I
枚	A
枚	S
枚	E
枚	C

合計 枚

<メモ:気がついた点など>

3つの欄の
合計が54
になってい
ればOK

9. 説明と解釈 (1) 説明のための導入

- 最初の実施者と受検者の役割で、交代に説明を行う。

導入・結果説明の雰囲気作り

- 分けた感想などを聞いてみる。

「分けてみてどうでしたか?」、「すぐに判断できましたか?」等。

<やりとり>

分類全体の把握

- まず、分けてもらった3つの山ですが、「やりたい」が 枚、「どちらともいえない」が 枚、「やりたくない」が 枚ありました。この分け方についてはどうですか?

結果の解釈の導入の部分なので、カードを分けた時の受検者の気持ち、理由などをうまく引き出せるように。

(2) 結果・整理シートによる説明と解釈

興味の6領域の説明(結果・整理シート<図表8>を使用)

- ・VRTカードでは興味の6領域に従って、結果を解釈することを説明。
- ・6つの領域の特徴を、結果・整理シートに沿って簡単に説明。

カードの分類結果の説明

- ・「やりたい」のカードの裏面を表にして(職業名がわかるように)、結果・整理シートのRIASECのまわりに配置する(図表9)。
- ・「やりたい」の枚数が最も多かった領域から順に、領域の特徴を解説する。

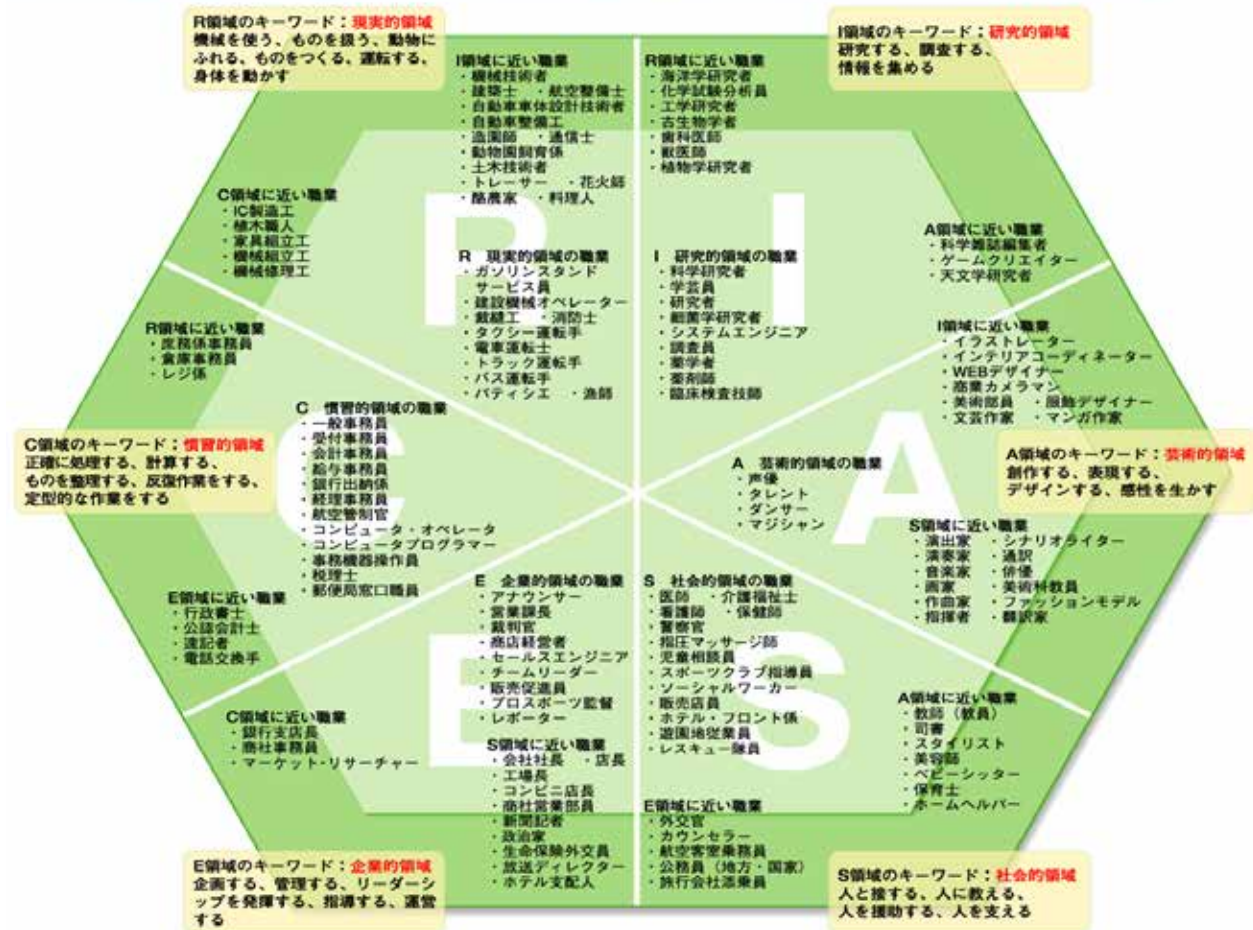
結果・整理シートは、説明後、受検者に渡してよい。

図表8 結果・整理シート(解釈用)

VRTカード 結果・整理シート

氏名： _____ 実施日： 年 月 日

★VRTカードを使って得られた結果をこのシートを使って整理してみましょう。
 ①興味や自信に関する3つの分類それぞれについて、カードの枚数を数え、領域別に記入する。
 ②興味や自信について、3つの分類毎にカードを6つの領域の周りに並べて、どんな領域のどんな仕事が多いのか、共通の特徴などを考える。



★分類結果の整理 (枚数を書き込みましょう)

	R	I	A	S	E	C
興味	やりたい					
	どちらともいえない					
	やりたくない					
自信	自信がある					
	どちらともいえない					
	自信がない					

★6領域の特徴

R	機械や物を対象とする 具体的な活動への興味	・機械を使う仕事 ・ものを扱う仕事 ・動物にふれる仕事 ・身体を動かす仕事 ・運転する仕事
I	研究や調査のような 活動への興味	・研究する仕事 ・調査する仕事 ・考える仕事 ・分析する仕事
A	音楽、美術、文芸など 芸術的な活動への興味	・創造的な仕事 ・アイデアを生み出す仕事 ・表現する仕事 ・感性を生かす仕事
S	人に接したり、奉仕を するような活動への 興味	・人と接する仕事 ・人に奉仕する仕事 ・人を教える仕事 ・人を助ける仕事
E	企画したり、組織を 動かすような活動への 興味	・企画する仕事 ・組織を運営する仕事 ・人や社会を動かす仕事 ・リーダーシップを発揮する仕事 ・監督する仕事
C	定まった方式や規則に 従って行うような活動 への興味	・事務的な仕事 ・規則的な仕事 ・正確さが求められる仕事 ・整理したり管理する仕事 ・反復作業が多い仕事

★気がついたことなどをメモしておきましょう。

受検者自身によるカード解釈

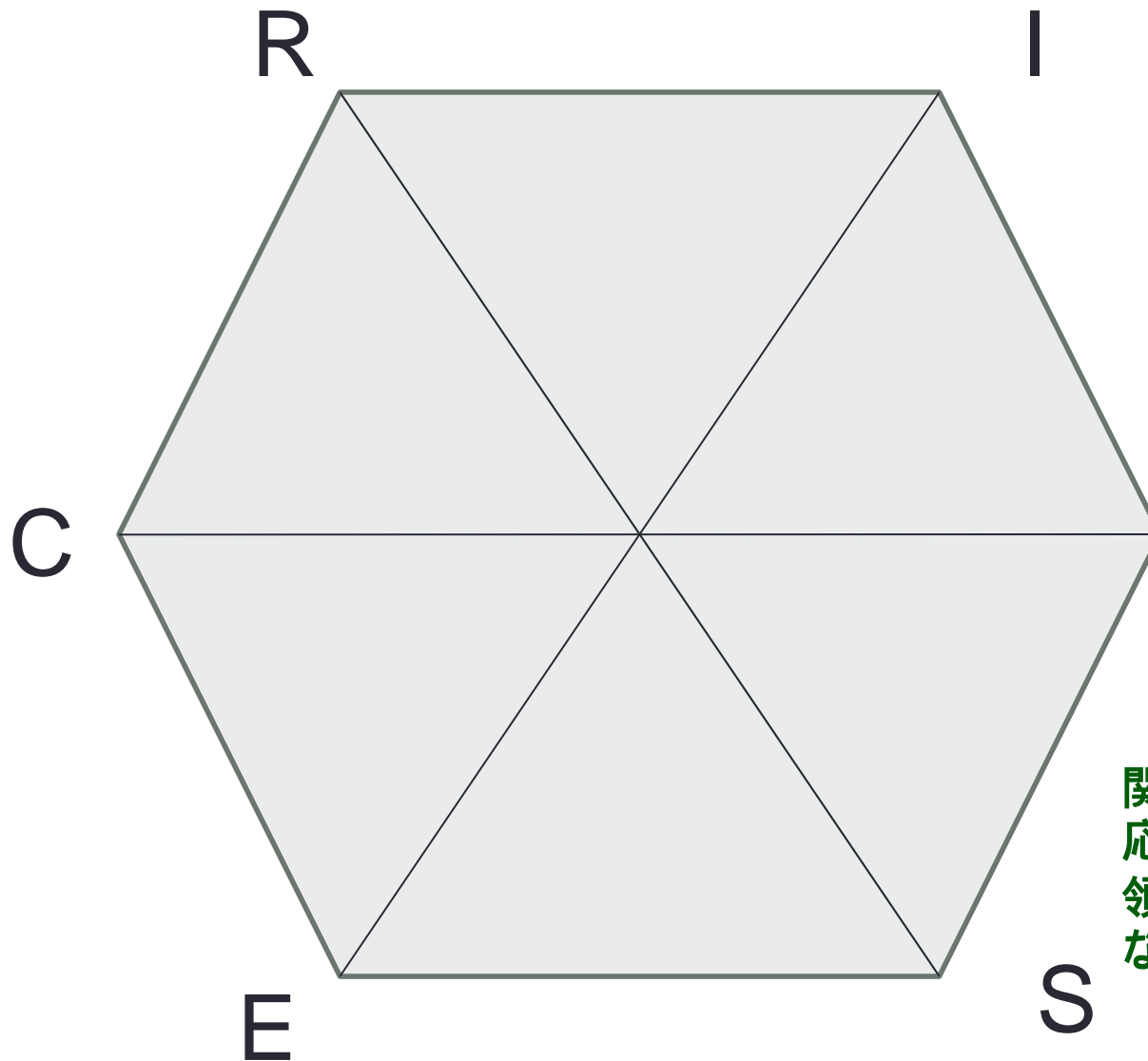
- ・枚数が多かった領域について、自己イメージとの一致など、**受検者の感想を話してもらう。**
- ・同じ領域に分類された**カードに共通する特徴を、受検者に検討**してもらう。

実施者による解釈の補足

- ・受検者が見落としている点、気がついていない点など、**実施者からみて気がついたことがあれば、補足(コメント)する。**
- ・受検者の希望する進路、職業の特徴と結果とのすりあわせなども、可能であれば解説する。

「やりたい」の後に、「やりたくない」の山についても同様に行く。「どちらともいえない」の山は、「やりたい」「やりたくない」のカードの枚数に応じて、適宜、判断して活用する。

図表10 Hollandの職業興味の6領域の関連



隣り合う領域：
RIやSEなど
(関連高い)

対極領域：
IE,RS,CA(関連
低い)

「六角形」の領域間の
関連についても必要に
応じて説明→隣り合った
領域間では関連が高い
など。

10. 利用上の留意点

- テストというよりは、相談担当者と受検者が「やりたいこと」、「好きなこと」あるいは「やりたくないこと」を見つけるために話し合う手がかりとして活用することがねらいなので、無理な解釈はしなくてよい。
- 「自信」の分類を実施する場合には、対象者の特徴を考慮することが必要（実施しない方がよい場合もあるが、能力についての参考になる情報を引き出せる場合も）。

11. 活用についての感想

* 学校での集団実施の感想

- あっという間に時間が過ぎるくらい楽しくできた。(高校生)
- こういう形でテストっていうのはとてもよかった。(高校生)
- コミュニケーションが苦手な生徒たちがカードを使うことでやりとりができてよかった。(高校の担当教諭)
- 自分が実施者の時、相手の人がどんな分類をするのかを見ることも大事な経験だと思う(高校の担当教諭)
- 二人組を作ってやる作業なので飽きることなく、楽しく作業することができた。二人で感想を言い合うので、自分でも気づかない点を発見することが可能だと思った。(大学生)
- 検査ということを意識せず、楽しく取り組めた。(大学生)
- 見やすい。机に広げられるのは良いポイントだと思う。(大学生)
- 興味がある職業と自信がある職業の違いがよくわかった(大学生)

* 個別相談での感想

- 就活に意欲をみせない学生に対して、個別に実施したところ、「**先生が心配してくれているのがよくわかった**」と学生が活動を始めることにつながった(大学教員)
- 若者の場合には、あまり話したがらない人もいるが、興味を調べるだけでなく、**いろいろな話を引き出す**ことができる点が良い。(HW担当者)

12.参考文献 (と はWEBでダウンロード可)

労働政策研究・研修機構編(2012) キャリア形成支援における適性評価の意義と方法 労働政策研究・研修機構

労働政策研究・研修機構(2012) VRTカード事例集 - VRTカードの活用と実践に向けて -

<http://www.jil.go.jp/institute/seika/vrtc/card/case/index.html>

室山晴美(2011) VRTカードの開発と活用の可能性の検討
JILPTディスカッションペーパー 11-03

<http://www.jil.go.jp/institute/discussion/2011/11-03.html>